科目名			担当教員	
心理学実験ＩB			佐藤　俊人・山口　奈緒美	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FB2534	1	1	SR (実験)	1 年以上
履修登録条件	「心理学実験ＩA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。			
生成 AI 利用レベル	レポート　：　C		試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目です。2017 年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017 年度以前に入学した方は、「心理学実験Ｉ」（科目コード：FB2505、２単位、履修方法：SR）を参照してください。
※本シラバス記載の担当教員から他の福祉心理学科の教員に変更となる場合があります。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験ＩA・ＩB」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

１）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
２）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
３）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
４）実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
５）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
６）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

単位認定レポート評価 30％＋スクーリング（実験レポート）評価７0％

■教科書・参考図書

【教科書】（「心理学実験ＩA・ⅡA・ⅡB」「心理学研究法 A」と共通）

１）高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　第３版』有斐閣アルマ、2025 年

２ ）『福祉心理学科スタディ・ガイド〔第４版〕』東北福祉大学（第４版でなくても可）
※「心理学実験ＩＡ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（最近の教科書変更時期）2026 年４月

（スクーリング時の教科書）教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

【参考図書】

課題１：金城辰夫編『図説現代心理学入門　四訂版』培風館、1996 年（「心理学概論Ａ・Ｂ」の教科書ｐ.１２７～１２８）

課題２：市川伸一 編著『心理測定法への招待』（新心理学ライブラリ　13）サイエンス社、1991 年
ほか、心理学研究法・心理測定などに関する本、または心理学の教科書で「測定や研究法」に関する箇所など。

課題３：後藤倬男・田中平八編『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会、２００５年
北岡明佳著『錯視入門』朝倉書店、２０１０年
丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版、1996 年
椎名健著『錯覚の心理学』講談社現代新書、1995 年
梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田新監修『新版　心理学事典』平凡社、１９８１年
https://illusion-forum.ilab.ntt.co.jp/（ホームページ「錯覚を体験 Illusion Forum」）
https://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/（ホームページ「北岡明佳の錯視のページ」）

課題４：南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編　『心理学研究法入門』東京大学出版会、２００１年
小牧純爾著『心理学実験の理論と計画』ナカニシヤ出版、２０００年
利島保・生和秀敏編著『心理学のための実験マニュアル』北大路書房、1993 年
宮原英種・宮原和子監修　加知ひろ子・武藤幸穂著『心理学実験を愉しむ―心理学の「日常性」と「科学性」』ナカニシヤ出版、２００３年
大山正・中島義明編『実験心理学への招待』（新心理学ライブラリ８）サイエンス社、1993 年
中島義明著『実験心理学の基礎』誠信書房、１９９２年
B.フィンドレイ著　細江達郎・細越久美子訳『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996 年

■単位取得方法

①スクーリング受講＋②実験レポート（２つ）提出・合格＋③単位認定レポート（1 課題）提出・合格で単位を修得します。

① スクーリング受講
会場スクーリング：２日間連続で受講してください。
オンデマンドスクーリング：受講期間内に受講してください。

② 実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、またはスクーリング時に指示される期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※ 実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※ 実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③　単位認定レポート（1 課題）提出・合格：スクーリング受講後に、「単位認定レポート課題」に示す 4 つの課題の中から 1 つを選び、スクーリング時に指示される期限までにレポートを作成して提出してください（字数は 1,０００字以上2,０００字程度 4,０００字以内）。未提出の場合、単位は与えられません。

※　「東京・札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■受講上の注意

推奨する受講順は「ＩＡ・ＩB」→「ⅡＡ・ⅡB」です。

ただし「ＩＡ」の受講を後にし「ＩB」を先に受講する場合は、下記の２つを行ってください。

①「ＩＡ」事前レポート課題を、「ＩB」受講前に「TFU オンデマンド」上で解答してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ｉ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？　アルカリ性の液体をつけると…？　理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。２つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■講義内容・進め方

スクーリングでは、「印象形成におよぼす背景効果」、「長期記憶の検索」という２つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（東京・札幌会場では「心理学実験ＩＡ」と連続して受講する場合３日間のスクーリングとなり、２日めに２つの実験を行います）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション・印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
2	印象形成②	実験実施。
3	印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
4	長期記憶の検索①	記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。

5	長期記憶の検索②	実験実施。
6	長期記憶の検索③	長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
7	心理学実験を深める	心理学実験の考え方の整理、論述式単位認定レポート課題の解説

■講義の進め方

▶実験１「印象形成におよぼす背景効果」

私達は人と会うときに、美しい景色、良い香り、快い音楽など快適な環境を選びます。それはなぜでしょうか。ここでは人物の印象評定に対する背景の効果を、評定尺度法という方法を用いて調べるとともに、この方法のメリット、デメリットについても検討します。

▶実験２「長期記憶の検索」

長期記憶の中からいくつかの記憶を探し出す時、我々はどのような探し方をするのでしょうか。さまざまな探し方が考えられますが、長期記憶を探す時に、人は一般にどのような心の使い方をするのか（ストラテジーという）を実験的に調べます。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中に行った２つの実験のレポート１００％（それぞれ１００点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓、４色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

「TFU オンデマンド」上で「心理学実験ＩＡ」の客観式レポートに解答してください。また、『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください（在宅学習９のポイントの７）。福祉心理学科以外の方は、「（様式25）教科書特例配本希望届」を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいてください。

なお、「心理学実験ＩＡ」を受講する前に「心理学実験ＩＢ」を受講する方は、とくに『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章（在宅学習９のポイントの７）などの熟読を念入りに行ってきてください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	科学と実証 （教科書 1） 第１章）	心理学でなぜ実験を行うかを理解するとともに、因果関係と相関関係の違いや、因果関係を確かめることのむずかしさについて理解する。	小さな子どもが、数年間のうちに「身長も高くなり」同時に「知能も高くなった」からといって、「身長が高い方が知能が高い」という結論にはなりません。因果と相関の違いを理解することで、心理学で因果関係を確かめる重要性とむずかしさを考えてみましょう。
2	さまざまな実験法 （教科書 1） 第7章）	研究の目的によって使い分けられる、さまざまな実験法についての全体像をとらえる。	まずは、テキストの随所に出てくる「独立変数」「従属変数」について、事項索引（教科書 1）p.347～）で探して理解しましょう。その上で、それぞれの実験法の長所と短所、短所を補うための工夫などを考えてみましょう。
3	研究の実施 （教科書 1） 第 14 章）	心理学実験の研究計画や論文・レポート作成の際の章立てを理解する。	特に７節の「研究の立案と実施」については十分に理解し、研究計画や論文・レポート作成の基本について学んでおきましょう。
4	結果の解釈 （教科書 1） 第 15 章）	実験を行い、その結果を解釈する際の留意事項について理解する。	まず、6 章の剰余変数に関する部分を読み直してみましょう。その上で、実験で扱わなかった要因の可能性などを考え、それを解決するためにはどうしたらよいかを考えてみましょう。
5	統計的分析 （教科書 1） 第 16 章）	実験の目的と実験計画に応じた統計的な分析の基本を学ぶ。統計の具体的手法を学ぶよりも、どのような場合にどのような統計が使えるかのイメージをとらえる。	難しいイメージのある統計的分析ですが、何を確かめるための分析かを考えることにより、身近なものに感じられます。統計的手法は実験の中心ではなく、実験結果をまとめる際の「道具」にすぎ ないことを念頭に置きながら全体のイメージをとらえましょう。
6	研究報告 （教科書 1） 第１7章）	心理学研究における論文、レポート執筆の基本について理解する。また、表１7-1 により、論文の標準的な構成について学ぶ。	論文、レポート執筆にはそれぞれの学問分野独特のルールや表現方法…いわば方言があります。一見面倒くさそうですが、これらの基本を身に着けることにより、必要な情報をわかりやすく的確に他者に伝える力がつき、心理学のレポート作成以外の場面においても応用できるはずです。
7	実験の意味・実験レポートの書き方 （教科書２）Ⅱ章）	実験の意味や具体的な実験レポートの書き方について学ぶ。	簡単な手続きにより、心理学的現象を実験によって確かめることが可能です。剰余変数や交互作用などの危険性もありますが、まずは簡単な実験により、心理学実験の面白さを理解することが大切です。
8	論文の作成 （教科書２） Ⅵ章 42第３版ではⅥ章 48）	学術論文の作成について学ぶ。	学術的な研究論文は、実験レポートの延長上にあります。実験や調査によって人間の心理を把握する面白さを実感できたならば、ぜひ卒業研究にもチャレンジして頂ければと思います。

９	各自が選んだ単位認定レポート課題	「実験 IB」を受講する方は、「実験 IB」のスクーリング終了後１課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題　スクーリング終了後１課題選択

課題１ 担当：佐藤　俊人	「マジックナンバー・セブン」の実験的検証 短期記憶の貯蔵能力には限界があり、健康な成人で、おおむね７個であるとされているが、その通りであるかどうかを確かめる実験を工夫し、実際に確かめてみなさい。
課題２ 担当：山口奈緒美	心理学的測定や評定における恒常誤差と偶然誤差を説明し、対策を述べなさい。
課題３ 担当：朝岡　陸	幾何学的錯視以外の錯覚現象を調べ、その説明と体験した感想を述べなさい。そして、もし錯覚が生じないとすれば、私たちの知覚された世界はどのようなものであると思うか、考察しなさい。
課題４ 担当：大関　信隆	心理学の方法論の一つとしての実験（法）の意義について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※「東京・札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■アドバイス

上記の課題から１つ選びスクーリング時に指示される期限内に提出してください。レポート提出台紙の表紙の「科目名」右側に担当教員名を、「課題欄」に課題を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,０００字程度を標準としますが、最長 4,０００字程度まで記入していただいて結構です（パソコン印字の場合左右 ４０字×３０行×4 枚で）。パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

【課題１アドバイス】

スクーリングで詳しいアドバイスをしますが、まず、短期記憶とはどういうものかを確認してみてください。その中から、自分が何を提示刺激にした実験をするかを決めるところから始まります。具体的には数字の列、意味のない文字列などが例に出されることが多いですが、いろいろと工夫をしても面白いと思います。

次にそれをどのように被験者に提示するのかも決めなければなりません。紙に書かれたものを見せるのか、読んで聞かせるのか、あるいはパソコンをつかってスライドショーのように提示することも可能でしょう。

さて、課題の中心は、短期記憶がいくつくらいまでなら覚えていられるか、ということですから、確実に覚えていられる数（刺激の種類によっても変わりますが 3～5 くらい？）からマジックナンバーである７をはさんで、覚えているのが無理な数（15 以上？）まで、いろいろな刺激数で実験してみてください。

ある刺激数を超えると急激に覚えられなくなってくるのではないでしょうか。そこが一人ひとりの実験でのマジックナンバーになります。この刺激の数が７±２になればマジックナンバー７が検証されたことになります。もし実験の結果がマジックナンバーが７±２から大きくずれたら、それがなぜかも考察しなければなりません。

以上の点を押さえた上で、覚えていられる数を増やすという実験を重ねても面白いと思います。例えばチャンクという考え方も有効なのではないでしょうか。

【課題２アドバイス】

参考書やスクーリング時に配布する資料を参考にまとめてください。「誤差」は“真の値からのずれ”といえるものですが、まずはどのような誤差があるか、それはどのような時に生じるのかを調べてみてください。誤差が私たち

の測定につきものだとすれば、それをできる限り小さくするには、どのようなことに注意しなければならないか、考えてみましょう。

【課題３アドバイス】

錯覚現象については、幾何学的錯視以外の錯視、視覚以外の錯覚などがあります。それらについて、単に知識として知るだけでなく、自ら観察あるいは体験してその感想やコメントを述べてください。そして、スクーリングでの説明などを参考に錯覚現象の背後にある知覚の働き（作用）について考え、もしそれらがなかったらと考えてみてください。

【課題４アドバイス】

心理学における実験（法）の意義を考える際には、次のような視点を持つことが必要と思われます。すなわち、①：「こころ」という対象に接近していくために、心理学の中にはどのような方法があるのか、②：実験（法）とは、具体的にどのようなやり方を有する方法論なのか、③：実験（法）の特徴や長所は何か、などです。これらのことは、言い換えれば心理学における他の方法論との比較、と考えることができるかもしれません。そうすることで、一層、実験（法）の意義や長所・短所が見えてきて、さらには心理学独自の多様な方法論を俯ふ瞰かん的に眺められるかと思います。また、実験（法）は心理学成立の歴史とも深い関係がありますので、これらについて＋αの考察をしてみることもよいかもしれません。